



第16回 上海国際映画祭 日本映画週間

6月15日～23日まで、第16回上海国際映画祭正式イベントとして「2013上海・日本映画週間」が開催された。今年は、日中平和友好条約締結35周年記念事業の一環にも位置づけられ、映画を通じた日中友好への期待が寄せられた。

「日本映画週間」とは、NPO法人日中友好映画祭実行委員会により企画・運営・実施される文化交流事業で、2006年から中国国家広播電影電視総局と日本の外務省、経済産業省および日本映画製作者連盟をはじめ、日中の映画会社や民間友好団体の協力を得て実施。

日中平和友好条約の締結から35周年に当たる今年もまた、日中両国政府、そして民間友好団体の支援のもと、第16回上海国際映画祭正式イベントとして「2013上海・日本映画週間」が実現。期間中、会場となる上海市内の主要映画館にて、日本で話題となった12作品が上映された。

今回出品された12作品は以下の通り。
『東京家族』『天地明察』『あなたへ』『遺体 明日への十日間』『テルマエ・ロマエ』『おおかみこどもの雨と雪』『ヒミズ』『カラカラ』『映画 ひみつのアッコちゃん』『今日、恋をはじめます』『桐島、部活やめるってよ』『リトル・マエストロ』

多彩なゲストが来海！

6月16日にはオープニング上映会やレセプションパーティーも行われ、両式典に出席した、在上海日本国総領事館泉裕泰総領事は「映画を通じて日本文化を広めて欲しい」と語り、上海文

広集団薛培建副総裁は「映画とは両国の理解を深める共通言語。両国の映画関係者やファンが手を取り合って、よりよい関係を築いてもらいたい」と祝辞を述べた。

そして、日本からゲストとして来海した『遺体 明日への十日間』の君塚良一監督は、「たくさんの人にお越しただいてとてもうれしい。日本と中国では生死感が異なるので作品の受け止め方も変わってくると思う。それぞれの感覚で受け止めてもらえたらうれしい」とあいさつ。『今日、恋を始めます』の古澤健監督は「作品を通して、中国の方とお近付きになれたと思う」と語り、『ひみつのアッコちゃん』の川村泰裕監督は「幼少の頃から中国映画が好きだった。こうして中国のみなさんに見ただけることがとてもうれしい」と、映画を通じた文化交流に手応えを感じた様子。また、音楽を題材とした『リトル・マエストロ』の雑賀俊郎監督は、「映画祭が始まってから中国と日本の音楽をテーマにした映画を作ってみてはどうかと、たくさんの方に言われた。予想外の反応だった。日本に戻って、どのような形で実現できるか検討したい」と語った。

『カラカラ』で主演を務め、『ラッシュアワー3』など、数々の中国映画に出演した経験がある女優の工藤夕貴さ

んもクロード・ガニオン監督とともに登壇。「映画は国と国をつなぐ架け橋。機会があればこれからも中国映画に関わり、両国の映画文化の発展に貢献していきたい」と、中国映画への出演にも前向きなコメントを寄せた。

映画を通じた日中の文化交流に長年携わっている日中文化交流協会栗原小巻副会長は、「同じ映画を見て、泣いたり笑ったり、良いものを作りたいという気持ちは、日本も中国も、世界中みんな同じ。日本と中国は国交正常化以前から、映画を通じて交流があった。数々の苦難を乗り越えて、交流を続けて来た先輩方に敬意を払いながら、新しい時代を担うみなさんにこの素晴らしい宝を引き継いでもらいたい」と、挨拶。会場を訪れた多くの人々から大きな拍手が送られた。

文化交流に一役

上海を中心に活動するAKB48の姉妹グループ「SNH48」のメンバーもレセプションパーティー会場に駆けつけて歌とダンスを披露。日本でヒットした「ヘビーローテーション」の中国語バージョンなどで、会場を盛り上げた。日本の「アイドル文化」も、今や大切な文化交流のツールのひとつ。多彩な才能を持つメンバーで構成され

る、人気急上昇中のSNH48から、今後日本や中国の映画に出演するメンバーも現れるだろう。

10月には中国映画週間

日本映画週間の主催のひとつである、NPO法人日中友好映画祭実行委員会が、「東京国際映画祭」期間中に「中国映画週間」の実施も行うことができ、中国の話題作を日本で見ることができ、貴重な機会とあって、多くの中国映画ファンが毎年楽しみにしている。日中国交正常化40周年となった昨年は、長崎でも中国映画を上映するイベントを実施し、両国より高い評価を得た。魅力的な俳優、緊迫したストーリーや王道のワイヤーアクション、メッセージ性の強い社会派作品などを多く生み出す、中国映画に対する注目が高まりつつある。今後、日本各地で中国映画をテーマにした同様の上映イベントが増えていくだろう。

関心が高い日本作品

昨年の日中関係の悪化以降、日本のアーティストのコンサートや松江の映画村などで行われていた映画撮影が激減。民間レベルでの文化交流の機会が随分減ってしまった。しかし、今回出

品された日本映画12作品のほとんどが満席となり、「東京家族」「桐島、部活やめるってよ」は前売り段階ですでに完売という人気ぶり。

世界の話題作が集まる本祭（第16回上海国際映画祭）においても、小津安二郎監督の代表作「東京物語」と「秋刀魚の味」が即日完売となるなど、日本映画に対する関心の高さは、日中間の混乱前と変わらないことが証明された。

「2013 上海・日本映画週間」開催概要

- 【期間】 2013年6月15日～6月23日
- 【主催】 上海国際映画祭実行委員会／NPO法人日中友好映画祭実行委員会
上海電影（集団）公司
- 【助成】 コンテンツ海外展開等促進基金（J-LOP）／独立行政法人 国際交流基金
- 【後援】 外務省／経済産業省／観光庁／在上海日本国総領事館
- 【特別協力】 独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）／
独立行政法人国際観光振興機構（JNTO）／上海日本商工倶楽部
公益財団法人ユニジャパン／日本映画監督協会／中日友好協会
公益財団法人日本中国友好協会／日本中国文化交流協会
一般財団法人日中経済協会／社団法人日中協会
- 【企画運営】 株式会社ムーランプロモーション

【執筆】 上海人 shanghai-zine.com 編集長 川添道子

あきらめずに 継続することが 大事

日中映画界の架け橋 耿忠さんインタビュー

2006年にスタートした日本映画週間も今年で8年目、すっかり毎年のお馴染み行事となっている。この日本映画週間をスタートし、毎年東奔西走して開催継続に尽力しているのが、NPO法人日中友好映画祭実行委員会の理事長である耿忠さんだ。

映画への熱い愛と、日中友好への思いを胸に活躍する耿忠さんにお話をうかがった。



—耿忠さんと日本映画との関わりはどのように始まったのでしょうか？

私は子どもの頃、中国の新体操ナショナルチームにいたこともありすが、夢は女優になることでした。昔、私の故郷である南京にあこがれの女優、中野良子さんがやってきました。彼女とお会いできたことも女優への夢を抱いた理由のひとつです。

日本に留学し、日本大学芸術学部演劇学科を卒業するときにチャンスがやってきました。浅田次郎先生原作の映画「ラブ・レター」のオーディションに参加し、300名の中から選ばれてヒロイン役を獲得したのです。それが私と日本の映画との関わりのはじまりとなりました。

日本に留学したとき、日本人に対するイメージが変わり、これを中国の人にも伝えたいと思いました。また日本ではたくさんの方に親切にしてください、その感謝を表したいとも考えていました。そのために私に何ができるだろうと思ったとき、日中の映画交流の仕事をするべきだと思ったのです。そこで会社を作り、日中合作ドラマや映画、それに映画祭を開催するという仕事を始めたのです。

—耿忠さんにとって、日本映画の魅力は何でしょうか？



リトル・マエストロ

監督：権賀俊郎
脚本：坂口理子
原作：いすみ(白抜きハートマーク)組
キャスト：有村架純、釈由美子
制作年：2012年



カラカラ

監督：クロード・ガニオン
脚本：クロード・ガニオン
キャスト：ガブリエル・アルカン、王麻夕貴、富田めぐみ
制作年：2012年bn



今日、恋を始めます

監督：古澤健
脚本：浅野妙子
原作：水波風南
キャスト：武井咲、松坂桃李
制作年：2012年



映画 ひみつのアッコちゃん

監督：川村泰祐
脚本：山口雅俊、大森美香
原作：赤塚不二夫
キャスト：綾瀬はるか、岡田将生
制作年：2012年



桐島、部活やめるってよ

監督：吉田大八
脚本：喜安浩平、吉田大八
原作：朝井リョウ
キャスト：神木隆之介、橋本愛、大後寿々花
制作年：2012年



おおかみこどもの雨と雪

監督：細田守
脚本：細田守、奥寺佐渡子
原作：細田守
キャスト：宮崎あおい、大沢たかお
制作年：2012年

中国の映画人は映画を学ぶとき、まず日本映画から学び始める人が多いです。たとえば、北京電影学院の初めての授業は、黒澤明監督の作品を用いたものなのだそうです。ですから中国の映画人の日本映画に対する研究はとても深く、日本映画への思いも深いんです。

日本映画では登場人物の気持ちをはっきりとひりひりと深く彫り込んで描き出しています。ですからその人物に立体感があり、魅力的に感じるのです。日本映画はハリウッド映画のようにテンポが速くなくて、時には遅いと感ずることもありますが、そうした日本映画独特の間が良いのだと思います。

— 今回の上海日本映画週間の開催にあたって、どのような点に最もご苦労されましたでしょうか？

昨年9月以来日中関係があまり良くなかったため、日本映画週間を本当に開催できるのか不安なところはありました。ですが、これまで8年間映画祭を続けてきたという実績があったので政府からの開催許可も下り、応援していただけました。

上海日本商工クラブさんにも賛助会員の募集を出していただいたり、たくさんさんの企業に私たちの活動を紹介していただいたり、とても感謝しています。みなさんの応援があるから今日までこ

れたのだと思います。

おかげさまで今回の上海日本映画週間も、チケット発売日の朝3時から行列に並ぶ人もいるほどの盛況でした。販売当日でチケットが完売したんです。こんなにも楽しみにしていただけているということがうれしかったですね。

— 映画を通じた日中交流について、歌忠さんの将来の夢はどのようなものでしょうか？

私は女優の夢もあきらめていません。女優として活動しながら、日中の文化交流、映画交流の仕事を続けたいと思っています。今回のゲストの中に栗原小巻さんがいます。彼女は女優業も続けながら、日中の文化交流に尽力、貢献されています。彼女のようになれたらいいですね。

映画祭も1回だけなら開催は簡単かもしれませんが、2回3回と続け、毎回成功させることはとても難しいことです。あきらめずに続けることが大事



だと思っています。日本語でも継続は力なりと言いますね。

私は純粋に映画が好きで、映画ファンの皆様の笑顔が見たいから日中映画祭に取り組んでいます。これはビジネスとして考えたら、成功している例ではないと思います。毎回赤字です。それでも最初の頃に比べたら前進しているし、赤字もだんだん少なくなっています。今後も継続することで、きっとたくさんの方がこの映画祭の価値を認めてくれて、もっと応援していただけるようになる、私たちの歩む先にはきっとすばらしいものが待っていると信じています。

日本映画週間上映作品



東京家族

監督：山田洋次
脚本：山田洋次、平松恵美子
音楽：久石譲
キャスト：橋爪功、吉行和子、西村雅彦、夏川結衣、中嶋朋子、林家正蔵、妻夫木聡、蒼井優
製作年：2013年



天地明察

監督：滝田洋二郎
脚本：加藤正人、滝田洋二郎
原作：沖方丁
音楽：久石譲
キャスト：岡田准一、宮崎あおい
制作年：2012年



あなたへ

監督：降旗康男
脚本：青島武
キャスト：高倉健、田中裕子、佐藤浩市、草薙剛、余貴美子、綾瀬はるか、三浦貴大
制作年：2012年



テルマエ・ロマエ

監督：武内英樹
脚本：武藤将吾
原作：ヤマザキマリ
キャスト：阿部寛、上戸彩、北村一輝、竹内力、六角蘭、笹野高史、市村正親
制作年：2012年



遺体 明日への十日間

監督：君塚良一
脚本：君塚良一
原作：石井光次
キャスト：西田敏行
制作年：2012年



ヒミズ

監督：園子温
脚本：園子温
原作：古谷実
キャスト：染谷将太、二階堂ふみ
制作年：2011年